

編集後記

■編集委員

委員長

藤 田 郁 代

副委員長

立 石 雅 子

今 井 智 子

内 田 信 也

宇 野 彰 準

勝 木 美 子

熊 倉 勇 美

倉 内 紀 子

城 間 将 江

鈴 木 恵 子

関 啓 子

玉 井 ふ み

深 浦 順 一

矢 守 麻 奈

梅雨期に入っても雨量は少ないのですが、樹々の青葉は茂り、どんよりとした雲の間から顔を出す太陽の光は力強く、自然界の生命を身近に感じるこの頃です。

さて言語聴覚障害学分野では将来が期待される若手研究者や臨床家が着実に育ってきています。本誌では、このような方々の研究に向けての真摯な努力と優れた研究成果に敬意を表するとともに今後の発展を祈念して「言語聴覚研究優秀論文賞」を設け、毎年1名の方を表彰しています。今号には第3回優秀論文賞を受賞された福岡達之氏の随想が掲載されていますのでご一読下さい。

本誌は発刊から約10年が経過し、年々投稿論文数が増え内容も充実してきました。そこで今年から4号発行することになり(そのうち1号には言語聴覚学会の事後抄録を掲載)、各号のページ数も増量しました。よって今号にはシンポジウム「認知症における言語聴覚士の専門性の追求」、4編の原著論文「低出生体重児の哺乳障害に対する言語聴覚士による介入の試み」、「Social-Conversational Skills Rating Scale(会話における社会的能力についての評価スケール)日本語版の作成」、「ALADJINを活用した学齢期児童の言語性コミュニケーションを構成する言語ドメインの検討」、「重度聴覚障害者1例に対するエレクトロパルトグラフィを用いた構音の評価・訓練の試み」のほか、2編の短報と1編のレポートを掲載することができました。いずれも小児から高齢者までの認知・コミュニケーションおよび摂食嚥下に関する問題を斬新な観点から追求し、貴重な知見を得ています。今号も読者の専門的知識・技術の更新におおいに役立つものと思います。

(藤田郁代)

言語聴覚研究(第10巻 第2号)2013年7月15日発行

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

編集・発行：一般社団法人 日本言語聴覚士協会(会長：深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9 階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2013, Printed in Japan

制作・発売：(株)医学書院(代表：金原 優) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

〒113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎ 03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎ 011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎ 03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)